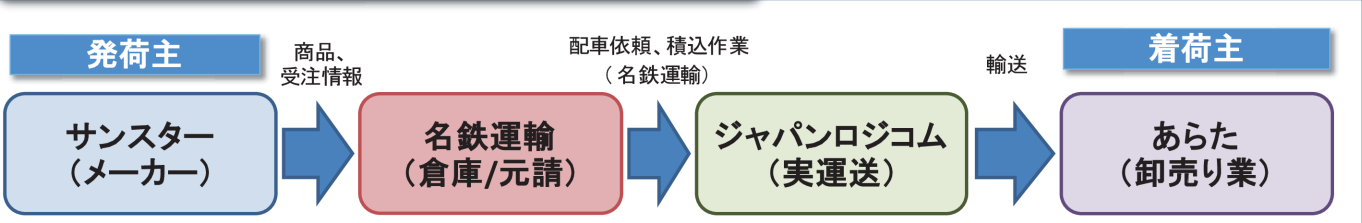


倉庫格納を考慮した積込作業の実施、優先荷卸バース設定、電子タグ(RFID)導入による荷卸時間、待機時間の削減 滋賀県

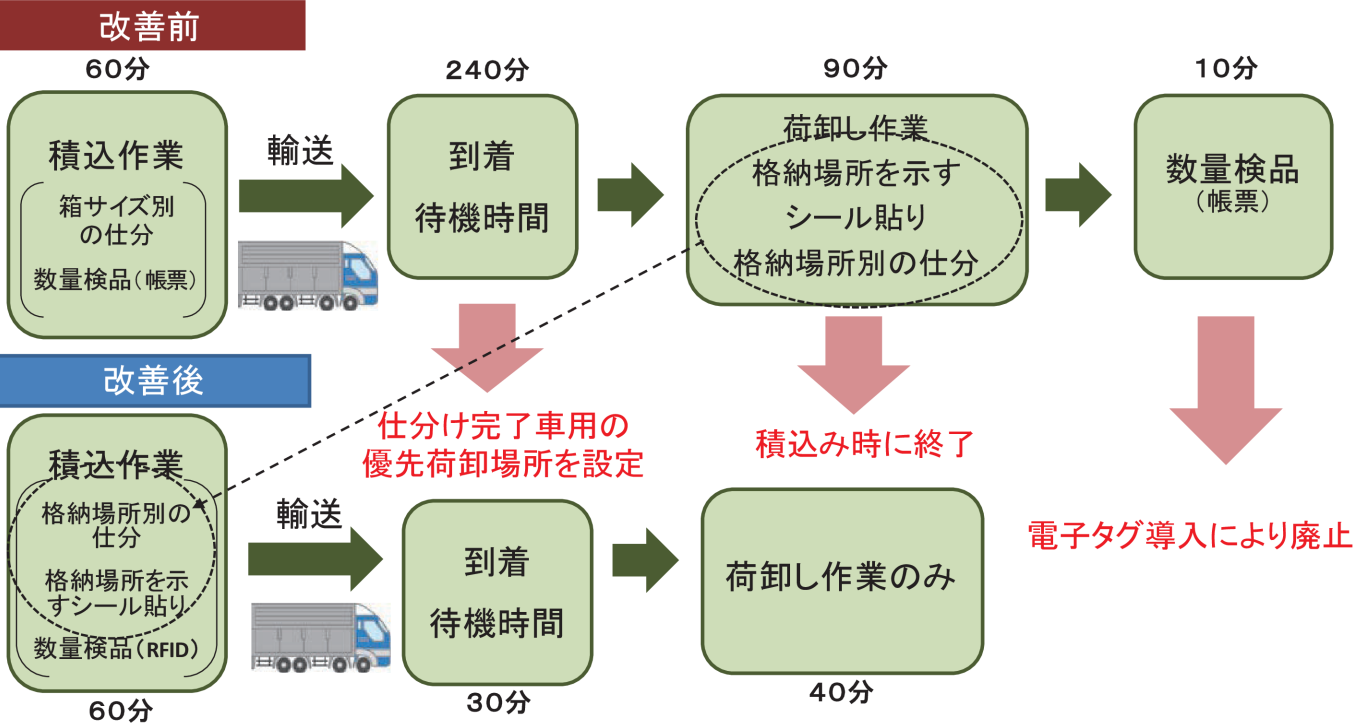
1. 実施者の概要



- 発荷主: サンスター
日用品の製造
- 元請運送事業者: 名鉄運輸
倉庫運営、ピッキング等を実施し、荷揃い作業を実施
- 実運送事業者: ジャパンロジコム
- 着荷主: あらた(卸売り業)
- 荷 種: 日用品

2. 事業概要

- 施策①: 荷主・運送事業者・着荷主が連携して、着荷主の格納場所別の事前仕分け
 施策②: 着荷主が、施策①を行った車両用の「優先荷卸場所」を設定
 施策③: ICTを活用した荷卸し時間の短時間化＝電子タグ(RFID)を活用して、「あらた」の検品作業をなくす



05 雑工業品

3. 実態と課題

- 着荷主「あらた」の物流センター到着後、荷卸し開始までの待機時間(240分:ピーク時の平均待機時間)。
- 到着順に卸すため、早く卸して次の仕事をしたいドライバーが、前日の夜から順番取りするため、物流センターの開門時に順番待ち車両が集中し、過剰な待機時間が発生。
- パレットで荷卸した後も、仕分・検品作業を行い、改めて積替え(100分)。さらに、荷卸後に、格納場所のシール貼り(あらた)、それを待ってシールに従った仕分け(ジャパンロジコム)。
- 帳票に照らし合わせた数量検品が発生し、長時間化。

4. 事業内容

施策①: 荷主・運送事業者・着荷主が連携して、着荷主の格納場所別の事前仕分け

- ・「サンスター」は「あらた」から受注情報と同時に納品先の物流センターの格納場所情報を入手。名鉄運輸に情報を提供。
- ・名鉄運輸は、格納場所情報に基づいて、格納場所別に仕分けして積込を実施。

施策②: 着荷主が、施策①を行った車両用の「優先荷卸場所」を設定

施策③ ICTを活用した荷卸し時間の短時間化＝電子タグ(RFID)を活用して、「あらた」の検品作業をなくす

- ・輸送前日に名鉄運輸が、輸送品に付けた電子タグに製品明細情報を登録。
- ・「あらた」に同情報を送信。 → 到着時に「あらた」で電子タグを感知し検品完了。

5. 結果

- 輸送時間を除いたドライバーの労働時間が、
400分から130分に**4時間30分縮減(▲68%)**
- ドライバーの労働時間短縮とトラック回転率向上**(縮減分の再運行が可能)**
- 「あらた」の物流センターのスペース効率や、荷卸場所の回転率も向上

6. 成果が得られた主な要因

- (1) 発荷主である「サンスター」がトラックドライバーの長時間労働の状況を理解し、その改善のための取組を企画立案し、主体的にこの取組を推進したこと。
- (2) 着荷主の「あらた」が、この取り組みを理解し、格納場所情報の事前提供や優先荷降場所の設置を行ったこと。
- (3) 元請で物流倉庫を管理している「名鉄運輸」が、RFID等のICT機器を活用したこと。